

---

# 俺と彼女の1日目

ULUF

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺と彼女の1日目

### 【Nコード】

N3507I

### 【作者名】

ULUF

### 【あらすじ】

主人公の名前は秋山直人

19才の大学生。

直人はいつもつまらない大学生活を過ごしていた。  
そこにある日1人の女の子が。

## 1 日目

俺は19才のバスで通ってる大学生。その大学は大人の人もいれば俺と同じ位の人もいる。この大学には男子6人女子が4人。

計10人。俺は待つたく相手にされてなくつまらない大学生活を過ごしていた。またのんびりと大学に行つてバスに乗り学校につきいつもの席に座つた。

その日は新しい子がくる日だった。

先生がきた。

（え〜今日から新しい仲間が来ました。）

先生は俺達の事を仲間と呼んでいる。

（それでは自己紹介をお願いします。）

その子が口を開いた。

（え〜と、、、や、山本、あ、娃娃理沙です。よ、よろしくお願ひします。）

かなり緊張していたようだ。

（それでは席について下さ。）

がさがさ、、、。

ん？

その子は俺の隣に座つた。他に席はいっぱい空いていたのに何故だ？横を見て見ると、、、

っあ！

その子は今日くる途中バスの中で会つた子だった。

そして俺にとつてこの

山本娃娃理沙と言う子は後にとても大切な人物になるとは誰も俺でさえもわかるはずがなかった。

そして山本さんが話しかけて来た。

（あ、あの〜、バスで会いましたよね。）

（あ〜そういえば会いましたね。）

俺と山本さんは何故か話していると気が合いすぐに仲良くなれた。俺にとってこの人は最初で最後の友達なのかも知れない。

俺は心の中でそう思っていた。

その日はあつというまに授業が終わった気がした。

俺はいつも通り1人で帰ろうと思っっていると思っると後ろから声がした。

（おゝい、ちよっと待ってゝ。）

俺は振り返った。

すると、娃娃沙ちゃん走ってこっちに近づいてきた。

（はゝはゝ、歩くの速いよ。）

（どうしたの？）

（秋山君の家こっちだよな？）

（そうだけど、それが？）

（うちもこっちだから一緒に帰ろうよ！）

女の人と帰る何て何年ぶりだろうか。俺はすこしたためらった。

（あ、え、あ、ああ、べ、別にいいけど、。。。）

凄く恥ずかしかった。

（やったゝ、じゃゝ速く行こう。）

その時彼女の顔を見て胸が何かに縛られたようにキュツとなった。

（あ、ああ、じゃゝ行くか。）

（うん。）

（男と女が2人並んで歩く何て、まるで付き合ってるみたいじゃないか、周りの人も見てくるし！）っと心の中で思っていた。

（ねえゝねえゝ、ねえゝってばゝ。）

（え、あ、な、何？）

何で俺こんな緊張してんだゝ？

（秋山君の家ってどの辺？）

（バスに乗って2ゝ30分ぐらいかな。）

（ふゝん、そうなんだ、

あ、バス来た。）

（何なんだこいつゝ、普通聞いといて、この返事の返し方はねえだ

る。)

とまた心の中で叫んでいた。

しばらくすると、家のそばのバス停についた。

(じゃ〜俺ここで降りるから。)

(え！うちもここなんだけど。)

(まじ！)

凄く偶然だった。

(家どこどこ〜?)

(もう少し、後5分ぐらい。)

そして5分経過、、、

(どこ。)

(へえ〜一軒家何だ。)

(それじゃ〜俺はこの辺で。)

(あ、ちよつと待って。)(ん?)

(うちも家紹介するよ。)(いいの?)

(良いよ〜。)

(どこ?)

(実は〜ここです。)

(え！)

そこは俺の家から徒歩10歩ぐらいのところにあった。(こゝ、このマ

ンション?) (そう、近いでしょ?)

(う、うん。)

(じゃ〜さ〜大学行くとき一緒に行こう?)

(べ、別にいいけど。)

(やった。じゃ〜また明日、おやすみ。)

(おやすみ。)

彼女はとても嬉しそうだった。

そして俺もこの長い1日をおえた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3507i/>

---

俺と彼女の1日目

2010年10月28日08時23分発行